22　福田邦三
看護・保健・助産婦　　学生諸君の卒業を送る
看護 9 (3) 9-11　　1957

看護・保健・助産婦
学生諸君の卒業を送る

福　田　邦　三

看護婦，保健婦，助産婦としてこの春学窓を巣立つて行かれる多数の若い方に感激と激励の語を寄せたい。

愛の心づくし

看護は「はぐくむ愛の心づくし」であります。皆さんがこの様な愛の使徒として，社会に出てゆかれ，身体的に，精神的に，あるいは社会的に困難な状態にあつて，世話をしてあげなければ気の毒な有様の人々に尽されることは，まことに気高い人生であります。これは神の愛の営みであり，また人々が助け合うという近代民主精神の発露であります。

皆さんは看護を以て生活のための職業と考えてはなりません。看護は職業以上のものです。それは自分のためでなく，他人の幸福を確保しようとする純愛の営みであるという意味で神への奉仕であり，社会への貢献であります。この様な気高い営みにこれから挺身して行かれる皆さんに対し，私は庶民の一人として深い感謝と感激をいだくのであります。そして皆さんによつて日本の看護が大いに進歩することを期待したいと思います。

ついては皆さんはヨーロツパの看護の伝統をあらためて日本に導入するために，その愛の灯を受け継がれたのだということを，はつきり覚えておいていただきたいのであります。

日本には奈良朝の昔にすでに気高い看護の事蹟があつたことは，光明皇后のお名前とともに誰でも知つていることであります。それだのに何故看護が発達

しなかつたのでしようか。ここにわれわれは日本の民族精神の弱点を探つて反省しなければならないと思います。また明治時代に弁護士，医師などとならんで看護婦という職種が出来ましたが，その内で看護婦という職種は世間の人から正しい位置づけをされないままで現在に至つています。いまだに看護とは病人の用事をする下婢の役目をすることだと思つている人があります。これは何処から来るのでしようか。

もちろんその由来は込み入つていると思いますが，世間の人がそういう風に思うようになつたということは世間の人も間違つていますが，また一方看護婦さんたちにも責任がないとは云えません。

誤つた理念

世間の人は看護婦が「はぐくむ愛の心づくし」として人々の世話をするのをその通りに受取らなかつたのです。人の世話をするのは召使のすることだという封建社会の通念がありますし，人間の世の中をすべて上下の関係として見ていましたから，召使は主人のおぼしめしに合う様に奉仕するのが当り前だという考えになります。

この様な気分の世の中では使用人的な，手伝いといつた様な立場の，従業員としての看護婦しか存在意義が認められませんでした。

看護婦さんたちは明治，大正，昭和にわたつてこの様な社会からの扱いに調和して行かなければならなかつたわけです。しかしその様な召使のような従業員としての扱に満足していたのでは看護の向上も進歩も保証されません。従業員としての扱に満足していたのでは准看あるいは雑役婦としての役目はできても，本当の看護婦としての役目は出来ません。また能力のすぐれた見識の立派な人が婦長になつていても，婦長は所詮医局の医師よりも位の下の者として扱われましたが，それで満足していては本当の婦長の役目はつとまりません。

終戦前までは大抵の病院では従業員としての看護婦だけが認められていたところへ，終戦後には職員としての看護婦を認めるようになつた。しかしそれは規則の文面の上のことで，いまだに大抵の病院では看護婦に職員としてでなく従業員としての待遇をしている。看護婦さん達もそれで結構おさまつているとい

うような有様です。

これは一口にいうと病院のしきたりが終戦前と今とであまり変つていないということです。形の上では変つていても，根本の心持がちつとも変つていない。院長，医師の側でも昔の様な女性観，社会観がつづいており，婦長，看護婦の側でも旧態依然たる日本女性の生活態度がつづいている。それでこそ調和がとれているのであります。

看護の改革のために

かようなことでは折角の戦後の看護態勢の改革が実を結ばないことになるおそれがあります。ヨーロツパ，アメリカの最もよいと云われる看護手技を習得し，伝承しても，それは大したことではありません。画家が新しい絵具を手に入れたようなものでしよう。芸術，技術として大切なのは画家にしても看護婦にしても，その情感，構想，企画，見識であります。これらはもちろん一朝一夕にできるものではなく，多年の苦心修業によつて天賦が磨かれて成熟するものであります。

かくして皆様は今までとちがつた意味の看護婦さん，看護の先進国に於けるナースに相当する人になつていただきたい。それだけでなく病院の医師をも含めて社会が皆さんを正当に待遇するよう毅然として要求なさるべきです。それは古い調和を破つて新しいヨーロツパ的調和を要求することです。私が皆さんにおすすめしたいのは卒業後5年間技を練るとともに，病院のあり方，保健所のあり方について思を潜められることです。そしてまた一方淑女としての一般教養を積むことを怠られないことです。そうすれば5年後には婦長ではないにしても婦長補佐として立派に新設病院の看護を掌握する見識が生まれるでしよう。そのような方々が今後看護協会の中堅として全国的に力を合わせて行かれれば，日本の看護態勢を正しく据え直すことも，やがて夢ではなくなると思います。

とにかく皆さんが本当に立派になられるのはこれからです。今までの勉強はそれの準備だつたのです。船ならば出港準備だつたのです。今や船出される皆さんに私は心から幸多き旅を祈ります。（東京大学医学部衞生看護学科 主任教授）